



# 瑞二だより

教育目標

自立・貢献・生き抜く力

発行者 江戸川区立瑞江第二中学校  
校長 横枕 耕史  
発行所 東京都江戸川区瑞江4-54-1  
発行日 令和8年(2026年)7月1日  
第560号



## 開校60周年記念 学校マスコットキャラクター誕生

校長 横枕 耕史

本校は本年度、開校60周年という大きな節目を迎えました。この記念の年にあたり、学校の新たな象徴としてマスコットキャラクターを制作いたしました。原画は生徒の皆さんから募集し、それぞれの作品に込められた自由な発想や温かな思いを大切に受け止めながら、美術科教員である私自身が本校の教育目標「自立・貢献・生き抜く力」や学校経営への願いを重ね、最終的なデザインへと仕上げました。こうして誕生したのが「みずにー」と「とぴろん」の二体です。生徒の感性と学校の理念が融合した存在として、今後さまざまな場面で本校の歩みを象徴していくことを願っております。



さらに、このキャラクターを活用し、六十周年記念行事実行委員会のご協力のもと、キャラクターをあしらったボランティアTシャツを50枚作成していただきました。このTシャツは、地域のボランティア活動や行事支援などに自ら主体的に参加する生徒に学校より貸与します。Tシャツを身に着けて活動することで、生徒の愛校心を育むとともに、中学生が自ら地域貢献するという本校が大切にしているボランティア・マインドの醸成につながることを期待しています。

さて、なぜ今、中学生と地域をつなぐことがこれほど重要なのでしょうか。現代社会においては、スマートフォンを通して膨大な情報に容易に触れることができる一方で、自分にとって都合のよい情報だけが選択されやすく、知らず知らずのうちに利己的な価値観に偏りがちになる側面も見受けられます。個人の自由や多様性が尊重されることは大切ですが、それと同時に、人と人々が直接顔を合わせ、言葉を交わし、互いの思いを感じ合う「リアルなつながり」の価値は、ますます重要になっているのではないのでしょうか。

地域は、世代や立場を超えた多様な人々が共に暮らす場であり、子どもたちにとっては学校では得がたい学びの宝庫でもあります。中学生が地域に出て、誰かのために活動する経験は、「自分が人の役に立っている」という実感をもたらし、自己有用感や自己肯定感を大きく育てます。また、地域の方々との関わりの中で培われる責任感や思いやりは、まさに「自立」し、「貢献」し、たくましく「生き抜く力」の基盤となるものです。

同時に、中学生によるボランティア活動は、地域コミュニティの活性化にも大きく寄与します。若い力が地域に関わることで、地域行事に新たな活気が生まれ、人と人とのつながりが再び広がっていきます。本校の生徒が「みずにー」と「とぴろん」とともに地域に出て活動する姿が、地域の希望の象徴となることを心から願っております。

60周年という節目を新たな出発点とし、本校はこれからも学校・家庭・地域が一体となって、生徒一人一人の成長を支えてまいります。保護者や地域の皆様におかれましては、生徒の挑戦を温かく見守り、支えていただきますようお願い申し上げます。本校の生徒が母校に誇りを持ち、地域とともに歩みながら、自らの未来を力強く切り拓いていくことを期待しています。